

# 朝日新聞

第5回

## 妻が殺害された部屋、借り続けて26年 「証拠を残し、現場検証を」

有料記事

野口駿 2025年7月12日 6時00分

床に置かれた懐かしいキャラクターのおもちゃ、壁に掛けられた1999年11月のカレンダー。あの日まで、この部屋には幸せな家族3人の生活があった。

玄関に残された血痕。家族の平穏な日常を終わらせた凄惨(せいさん)な事件の記憶を物語る。

「犯人が捕まればこの部屋を処分できるかなと思うんですけどね」

高羽悟さん(69)は、妻の奈美子さん(当時32)が殺害された名古屋市西区のアパートの部屋を26年間にわたって借り続けている。



血痕が残る玄関を見つめる高羽悟さん=2025年5月1日午後1時17分、名古屋市西区、小玉重隆撮影 

事件は土曜日の白昼、突然起きた。

99年11月13日午後2時半ごろ、奈美子さんが室内で首を刺され、亡くなっているのを訪ねてきた近所の人が発見した。一緒にいた当時2歳の長男は無傷で傍らに座っていた。高羽さんは当時、仕事に出ていて不在だった。

高羽さんが不動産会社の同僚だった奈美子さんと結婚したのは95年。2年後には長男が生まれた。

奈美子さんは料理が得意な家族思いの人だった。部屋の本棚には、奈美子さんが使っていたレシピ本が並ぶ。「おいしいものを作ってくれた」

事件の約1カ月前には、家族で東京ディズニーランドにも行った。奈美子さんの母親と同居しようと分譲マンションも購入していた。幸せの絶頂だった。

### 【地図で見る】全国の未解決殺人事件 →

殺人事件の時効が廃止されてから今年で15年。未解決の殺人事件の真相解明の一助になることを目指し、事件を一覧できるページを作成しました。各事件のリストでは、情報提供ができる電話番号も掲載しています。



事件当時のまま食器が残る食卓=2025年5月1日午後0時48分、名古屋市西区、小玉重隆撮影 

「これからどうしよう」。突然の事件に、喪失感から高羽さんはぼうぜんとするしかなかった。

長男を連れて実家に身を寄せた。現場の部屋を借り続けるつもりはなく、「いつまでも事件現場を残していても仕方がない。早く片付けないといけない」。そう思っていた。

ただ、奈美子さんの使っていた品々を手にとると、「これ、大事にしていたものだな」と思い出がよぎる。片付けが、手に着かなかった。

そんなとき、奈美子さんの母親から「処分せずこのままにしてくれないか」と言われた。

「家賃さえ払えば、無理に片付けなくていいんだ」。言葉を聞いた途端、気が楽になった。



押し入れには、妻の奈美子さんが集めていたアイドルの写真集などが残されていた=2025年5月1日午後1時3分、名古屋市西区、小玉重隆撮影 

「保存」への思いを強くしたのは、事件から3年が経った頃だった。テレビ番組の取材で、現場を訪れた専門家が玄関の血痕を見て「犯人の血ではないか」と指摘した。

高羽さんは、血痕を奈美子さんのものだと思っていた。すぐに警察に尋ねると「それは犯人しか知り得ない情報で、言えませんでした」と明かされたという。

「現場には僕が知らないことがまだあるかもしれない」。犯人が捕まるまで、現場を保存しようと決意した。

26年間、家賃を全て自費でまかなってきた。これまでに費やした家賃の総額は約2200万円。一時は貯金を取り崩すこともあった。この間、家賃に関して公的な支援や補償は受けていない。



壁に貼られたまま残る当時のカレンダー=2025年5月1日午後0時45分、名古屋市西区、小玉重隆撮影 

「僕が保存しなくても警察には、現場から採取したDNAはある。個人でやっていることで、金銭的な補償を求める気持ちは一切ない」

支えてくれる人もいた。アパートの貸主は、9万円だった家賃を5万円まで下げたという。「本当に感謝している。いい人たちに恵まれた」

高羽さんによる「現場保存」は、警察にとっても貴重なものとなっている。現場には、毎年、事件当時を知らない若い警察官が訪れ、「実際の現場はこんな感じなのか」と声が上がる。それを聞くと「借り続けてよかったな」と思う。



犯人のものと見られる血痕=2025年5月1日午後1時16分、名古屋市西区、小玉重隆撮影 



実は部屋を手放すことを考えたこともあった。今は、迷いはない。

DNA情報をめぐる科学捜査技術の進展への期待があるからだ。高羽さんは殺人事件の被害者遺族らでつくる「宙(そら)の会」で代表幹事を務めているが、同会は捜査におけるDNA情報の利用拡大を訴えている。新しい技術が導入されて、犯人の逮捕につながるかもしれない——。そんな可能性がある以上、部屋を手放すつもりはない。

高羽さんは語気を強める。「証拠を残し、犯人が捕まったときに現場検証させる。犯人が捕まるまで区切りはつかない」



アパートの玄関の鍵を開める高羽悟さん=2025年5月1日午後1時21分、名古屋市西区、小玉重隆撮影 

## 名古屋市西区の女性殺害事件

1999年11月13日午後2時半ごろ、名古屋市西区稲生町5丁目のアパートで、住人の高羽奈美子さん(当時32)が遺体で見つかった。刃物で首を刺され、殺害されたとみられる。遺体の近くには当時2歳の長男がいたが無事だった。玄関に残されていた血痕のDNA型鑑定などから、犯人は血液型がB型で、当時40～50代の女とみられ、靴のサイズは24センチと判明している。現場近くでは手から血を流した中年の女が目撃情報もあるという。解決につながる有力な情報を提供した人には「捜査特別報奨金」として、最高300万円が支払われる。

---

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.